科目ナンバリング	U-LAS00 20004 LJ34				
授業科目名<英訳>	人間実践論II Philosophical Theory of Human Acts II			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　佐藤　義之
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・後期	曜時限	月4	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

講義ではレヴィナスの最初の主著『全体性と無限』を手がかりに他者と倫理について考えてみたい。レヴィナスは、倫理について極限的な思考を展開するとともに、そこから哲学の根本的変革を企てた思想家である。

[到達目標]

レヴィナスを通じて、他者論、倫理についての代表的な議論に触れる。そのことで哲学的なものの見方を習得する。

[授業計画と内容]

総題：レヴィナスの思想
（1）序
　現象学という立場（第1回）
　他者の謎（第2回）
（2）顔と倫理
　顔の体験と無限の責任（第3～4回）
　「選び」とその根拠？（第5回）
（3）同と他
　同と他（第6回）
　同の具体的あり方――享受、労働、所有（第7回）
（4）他者の絶対他性
　テーマ化と同化（第8回）
　言語とテーマ化（第9～10回）
（5）学に対する顔の先行性
　教えと学問（第11回）
　「第一哲学としての倫理学」（第12回）
　批判的考察（第13～14回）
フィードバック：詳細は別途連絡する（第15回）。

[履修要件]

哲学・思想系の基礎論科目のなかから「哲学」、「倫理学」、「論理学」、「西洋社会思想史」、「科学論」、「宗教学」のどれかひとつ以上を履修済みであり、すでにこの種の学問に触れて基本的な考え方についておおよその知識を持っていることが望ましいため、一回生の受講は原則的に認めない。

人間実践論II(2)へ続く↓↓↓

人間実践論II(2)

[成績評価の方法・観点]

授業に関連するレポートを２回提出してもらう予定であるが、そのレポートによって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

関心のある者は、授業中に紹介した参考書を読んで、自ら学習を深めてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

受講希望者多数の場合は抽選により受講者を制限することがある。

[主要授業科目（学部・学科名）]